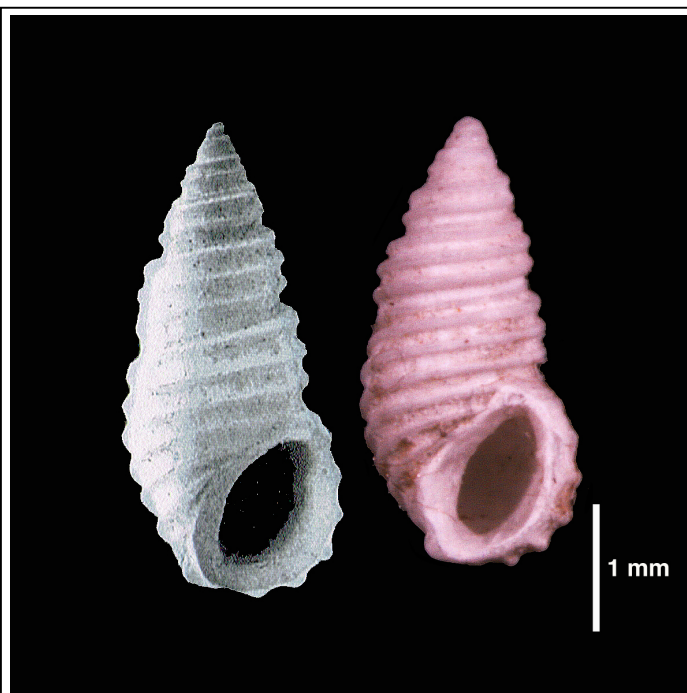


ゴマツボ *Stosicia annulata* (Dunker)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、無酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は、日間賀島の潮間帯や同島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻は採集されたが、生貝は採集できていない (木村, 1995, 1996)。近年貝類多様性の回復傾向が認められる三河湾の島嶼域の調査でも (例えば早瀬・木村, 2020) 稀に死殻が採集されただけで、生息が確認できない。引き続き、絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



左: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 2-4 m), 1995 年 2 月 9 日。  
右: 西尾市佐久島, 2016 年 6 月 5 日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 5 mm の微小で、やや細い紡錘形で殻は厚い。殻表に強い螺肋がありその間は溝状になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では生貝が採集されていない。近年貝類多様性が回復傾向の三河湾内の島嶼域においても、生貝は確認されず、死殻の採集例も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本と中国大陸に分布し、国内では房総・能登半島～九州まで分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では生貝が全く採集できない。危機的な生息状況といえる。絶滅した可能性も高い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. ゴマツボ, p. 36. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野。  
早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島 (三河湾) の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.  
木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会。  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会。

(木村昭一)